The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

『四分比丘尼羯磨』の高麗初雕本テキストについて

楊　婷婷

1．はじめに

『大正新脩大蔵経』（以下『大正蔵』）第二十二巻に収録されている『四分比丘尼羯磨法』は一巻本で，高麗再雕版を底本とし，宋・元・明三本，宮内庁本によって校合したものである．

ところが，内容を調べてみると，本テキストは曇諦訳の『羯磨』の比丘尼部分とほぼ同じである．経題と訳者とが相異するにもかかわらず，内容が重複していることは不思議であると思われるが，従来の研究では高麗再雕本『四分比丘尼羯磨』は曇諦訳『羯磨』から抄出したものであると判断されている[1]．金蔵には全く別な内容である『四分比丘尼羯磨』がみられるが[2]，残本にもかかわらず，ほかには何処にも見られない内容であるからか，今までは重視されていなかった．

近年高麗大蔵経研究所（韓国）は南禅寺（京都）蔵高麗初雕版の調査を行い，その結実は同研究所のホームページに2010年から公開されている．高麗初雕版蔵経写真の公開によって，初雕版蔵経にも『大正蔵』収蔵のものと完全に別内容の『四分比丘尼羯磨』があることが分かった．その内容と趙城金蔵本テキストと比較してみると，趙城金蔵に残されている本文と初雕本の本文とは内容や版式などが驚くほど合致していることが明らかになった．完本の高麗初雕本『四分比丘尼羯磨』の出現によって，このテキストの構成や内容についてはじめて十分に考察する機会が訪れた．

2．高麗初雕本『四分比丘尼羯磨』の書誌

本書は南禅寺に所蔵されている．高麗大蔵経研究所の公開写真に依れば，形態は折帖本である．一紙23行×14字，全体の張数は22張．柱に経名，張次，千字文号が記されている．巻首破損．若干見にくいが，首題は『四分比丘尼羯磨』であることが判断できる．経題の下部に千字文号がある．「傅」を朱筆で消して，上

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

に墨書きで「訓」と書いてある．その上に左半分しか残っていない「神撫山禅昌寺[3]常住」（朱印）という所蔵印が押されている[4]．訳者名なし．尾題は『四分比丘尼羯磨』である．写真しか見られないため，法量が分からないが，『日本南禅寺所蔵高麗初雕大蔵経調査報告書』によれば，初雕本の形態は以下の通りである．

紙高 27.6 ～ 28.1cm　匡高 21.1 ～ 23.0cm　紙幅 43.7 ～ 49.0cm

元来は巻子本であるが，5 ～ 6 行ずつ折帖の形態に改装されている[5]．

写真によって折り目がはっきり見えるので，本書は 5 行ずつ折られていることが判断できる．

3．初雕本と再雕本との差異が生じた原因

前述したように，高麗初雕版蔵経と再雕版蔵経にある『四分比丘尼羯磨』は全く別なテキストである．同じ高麗版蔵経であるのに，何故このような異同が生じているのか，その理由は守其等撰『高麗国新雕大蔵校正別録』（以下『校正別録』）に所収されている守其等校勘『四分比丘尼羯磨』[6]から探ることができる．この校勘文についての詳しい検討は拙稿「高麗初雕本『四分比丘尼羯磨』に関する試論」[7]に譲る．ここでは関係がある箇所のみ取り上げてみる．

> 按此羯磨一巻，宋本与国本則同，丹本将二本独異．何耶．今撿丹本，与懐素所集文義大同，又其起尽有倫叙．可観知是跋摩所訳正本．故取之入蔵．…（中略）…故知二本是乃後代無稽之人臆度乱抄耳．不可依用．今故遉之．
> （按ずるに，此の羯磨一巻，宋本と国本とは則ち同じく，丹本将に二本と独り異なる．何ぞや．今丹本を撿するに，懐素が集する所と文義は大同し，又其の起尽に倫叙有り．是れ跋摩所訳の正本と観知すべし．故に之を取りて入蔵す．…（中略）…故に二本これ乃ち後代の無稽の人の臆度乱抄なるを知るのみ．依りて用いるべからず．今故にこれを遉す．）

「宋本与国本則同，丹本将二本独異」の一文によれば，『四分比丘尼羯磨』というテキストは，宋本（開宝蔵）にも，国本（初雕本）にも同文である．契丹蔵に見られるのはこの二本と異なっているテキストである．この校勘文からみると，守其等によって，宋本と国本とにある『四分比丘尼羯磨』は後代の無知の人により憶測して抄出されたものであると判断され，ついに契丹本を用いて差し替えられたということである．

4．本テキストと『十誦律』

初雕本テキストの項目の配置の概要を示せば，以下の表の通りである．なお，

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

翻刻文は拙稿[8]を参照されたい．

比丘尼羯磨（前半部分）	比丘羯磨（後半部分）
1，度沙弥尼文	6，度沙弥文
2，式叉摩那請六法文	7，大僧受大戒羯磨法文
3，比丘尼乞畜衆羯磨文	8，受衣鉢文
4，受大戒羯磨法文	9，請依止文
5，受衣鉢文	

本稿では2の「式叉摩那請六法文」の箇所を例として検討してみる．

初雕本テキストの中に，「式叉摩那六法」は「婬」「偸盗」「殺生」「妄語」「摩触」「八事」という六つが述べられている．経題に「四分」が付されているので，広律である『四分律』の条目と一致しないといけないが，『四分律』の中に，「六法」は「婬」「偸盗」「殺生」「妄語」「非時食」「飲酒」の六つである．『校正別録』にもこの問題について指摘している．

其学戒六法中，四分即以非時食与飲酒為第五六．而二本乃以摩触八事為五為六．四乱也．（それ学戒六法の中に，四分即ち非時食と飲酒を以て第五六となす．而るに二本乃ち摩触八事を以て五となし六となす．四の乱なり．）

守其が言っている通り，経題は『四分比丘尼羯磨』なのに，『四分律』の内容と一致しない場合は，テキスト自体が混乱していると思われるのは当然である．しかし，何故こういうことが起きたのだろうか．果たして初雕本『四分比丘尼羯磨』は守其等が言っているとおりに，後世の無知（無稽）の人が作ったのであろうか．

諸広律を調べてみると，式叉摩那六法の内容は必ずしもすべての広律には一致しないのである．『摩訶僧祇律』には二年の間に十八事を習うべきであると書かれているが，六法について明確に書かれていない．その他には，『四分律』と『五分律』には六法の内容は同じく書かれている．注意するべきなのは『十誦律』である．『十誦律』の式叉摩那六法は「婬」「偸奪」「殺生」「妄語」「摩触」「八事」と述べられている．訳語は若干異なっているが，項目上は本テキストと完全に一致している．また，本テキストと『十誦律』との「六法」の文章を比較してみると，項目上は一致しているが，表現は完全に異なっている．

一方，「婬」「偸盗」「殺生」「妄語」「摩触」「八事」という六つの項目は同時に比丘尼八波羅夷の前六項であるので，初雕本の六法と『四分律』八波羅夷の前六項との比較もしてみる．その結果，両テキストの訳語と文章の構成は非常に類似

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

している．単に『十誦律』のみ或いは『四分律』だけを基にしていたら，こういう結果にはならないだろう．要するに初雕本『四分比丘尼羯磨』は『十誦律』と関連性があるということである．

5．おわりに

本稿では，「式叉摩那六法」を例として，初雕本『四分比丘尼羯磨』と『十誦律』とが関連していることを明らかにした．そのほか，初雕本テキストには『四分律』広律や羯磨本に見られない文章が多々入っているが，これらの文章はどこから採られたのか，種々調べた結果，『十誦律』もしくは『十誦羯磨比丘要用』から引用した内容であることが分かった．しかし，初雕本の底本となったテキストを作った編纂者は実によく工夫していて，内容上の表現や訳語などをすべて『四分律』の表現や訳語に統一させていた．正式文献として入蔵されたのであるから，このテキストは当時一定の影響を持っていて大事に保存されていたと想定できる．内容が『十誦律』に関連性を持つことから見れば，初雕本テキストが編纂されたのは『十誦律』の影響がまだ残っていてしかも『四分律』に移項する時代になってきたという時期であろうと推測できる．

1）平川彰著『律蔵の研究』260 頁，春秋社，1999 年 6 月．
土橋秀高著『戒律の研究』366–367 頁，永田文昌堂，1980 年 5 月．

2）『中華大蔵経』第 41 冊 603 頁中段–608 頁中段，中華書局，1990 年．

3）神戸市須磨区禅昌寺町にある．神撫山（じんぷさん）禅昌寺といい，本尊は十一面観音．延文年間（1356–1360 年）月庵宗光禅師の開山により創建された寺である．1614 年に徳川家康の命令によって南禅寺に移管された大蔵経は，元々禅昌寺に所蔵されていた資料である．

4）所蔵印については，他の経典の画像を参考にすれば，「攝州兵庫下庄帝釋／神撫山禪昌寺常住」である．本書は左の半分しか残っていない．

5）『日本南禅寺所蔵高麗初雕大蔵経調査報告書』，韓国：㈳蔵経道場高麗大蔵経研究所，日本：花園大学国際禅学研究所共編，2010 年 1 月 25 日．

6）影印『高麗大蔵経』第 38 巻 663 頁下段 2 行–672 頁上段 9 行，東国大学校，1976 年．

7）拙稿「高麗初雕本『四分比丘尼羯磨』に関する試論」（『仙石山仏教学論集』第 6 号所収，国際仏教学大学院大学，2011 年）．

8）前掲拙稿を参照．

〈キーワード〉 高麗初雕本，『四分律』，『十誦律』，比丘尼，羯磨，守其

（国際仏教学大学院大学）

NII-Electronic Library Service